〔10番　住田清美　登壇〕

○10番（住田清美）

それでは議長のお許しをいただきましたので、一般質問させていただきます。

まず最初に、飛騨市ゼロカーボンシティ宣言の進捗についてお尋ねしたいと思います。今年も暑い夏が続きました。猛暑日を超える酷暑日まで現れました。また、８月には珍しく、日本近海で台風が４つも同時発生するということもありましたし、線状降水帯が居座り、昨日も名古屋ですとか、岐阜・美濃方面に大変な大雨被害がありました。こうしたところがある一方、水不足で取水制限しているところもあります。何だか変な気象状況が出現していますが、いずれも地球温暖化が原因と見られています。

2015年に合意されたパリ協定では、世界全体の平均気温上昇を産業革命以前に比べ２度未満とし、1.5度に抑える努力をするとの目標が広く共有され、この目標の達成のためには二酸化炭素の排出量を2050年までに実質ゼロとすることが必要とされています。そこで当市では、令和４年３月９日に飛騨市ゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素社会の実現に向け、市民・事業者・行政が連携し地球温暖化対策に取り組み、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを宣言しています。目標に向け、どのような取組がなされているのでしょうか。

その具体策かもしれませんが、８月18日には飛騨市環境審議会が開催され、令和７年度の実施状況の報告や令和８年度の実行計画などが審議されました。この基となるものは、令和５年３月に策定した飛騨市第三次環境基本計画です。この計画には５つの基本目標があり、１、地球温暖化対策を推進する。２、循環型社会を構築する。３、きれいな水と豊かな緑を次世代に引き継ぐ。４、快適に安心して暮らし続けられる生活環境を守る。５、みんなで環境の保全創造に取り組むとあります。二酸化炭素の量は目に見えるものではないかもしれませんが、実質ゼロを目指して、今どの辺に位置しているのでしょうか。次の点を含めお尋ねしたいと思います。

１つ目は、飛騨市環境基本計画についてです。８月18日に開催された環境審議会では、委員の皆様から多数の意見が出されました。プラスチック製品の一括回収について、シュレッダーごみのリサイクルについて、Ｊ－クレジットの売買についてなど、身近な意見が多かったように思います。環境基本計画の基本目標１は、地球温暖化対策を推進するとあります。また、基本目標２は、循環型社会を構築するとあり、ごみの排出量などは数値化されていますが、市民の皆さんが脱炭素に協力するには今どこまで進んでいるのかができるだけ数値化され、ゼロカーボンがどれだけ実行されているか確認できるとよいと思います。次年度の審議会において、実行計画や実施状況年次報告書には改善がなされるのでしょうか。また、ゼロカーボンシティ宣言では、市民・事業者・行政が連携するとありますが、どのような取組で推進しているのかお尋ねします。

２つ目には、ひだゼロカーボンアクションポイントについてです。環境審議会の最初に、古川中学校マイプロジェクトの取組として、ひだゼロカーボンアクションポイントが発表されました。中学生なりに環境問題に関心を寄せ、現場視察や現場の声を集約し、環境に優しい行動をするとポイントがたまり、特典やプレゼントと交換するなど楽しく脱炭素に取り組めるスマホアプリを開発しました。10月運用を目指し最終調整段階と聞きます。市としてはこの取組をどのように支援し、ＰＲにつなげていくのかお尋ねします。

３つ目は、バイオコークスの取組についてです。地球温暖化の一因にエネルギー問題があると思います。できるだけ環境に負荷をかけないエネルギーの開発がなされていますが、今注目を浴びているのがバイオコークスではないでしょうか。バイオコークスとは、木くずや野菜くず、牛ふん堆肥などのバイオマス資源を乾燥・圧縮することで作られる固形燃料の一種です。性質は石炭に似ていますが、再生可能資源から作られているため環境負荷が低いのが特徴です。また、備蓄できるエネルギーとして500年くらい備蓄できるとも聞きます。飛騨地区では下呂市に工場があります。当市でも木くずやトマト、ホウレンソウなどの農作物残渣、牛ふんなど原料となるものがあります。この事業は、国や県も前向きに進めていくようです。飛騨市としては、バイオコークスについてどのように取り組んでいくお考えなのかお尋ねしたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔環境水道部長　谷口正樹　登壇〕

□環境水道部長（谷口正樹）

飛騨市ゼロカーボンシティ宣言の進捗について３点の質問をいただきましたので、私からは、１点目と２点目についてお答えいたします。

まず、１点目の飛騨市環境基本計画についてですが、議員御指摘のとおり、近年の異常気象は地球温暖化の影響と深く関連しており、市としても喫緊の課題として認識しております。令和４年３月９日に飛騨市ゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、令和５年３月策定の飛騨市第三次環境基本計画に基づき、市民・事業者・行政が一体となって各種施策を推進しているところでございます。現在、実施状況年次報告において、ごみの排出量等については数値化・公表を行っておりますが、地球温暖化対策に関わる各項目について、可能な限り数値化、見える化を進めることは、市民の皆様の行動変容を促す上でも有効であると認識しております。

そこで、次年度の実績報告においては幾つかの項目において、数値での把握・報告を目指してまいりたいと考えております。具体的には、市内の再生エネルギー導入量、太陽光でありますとか小水力等でございます。市有施設における省エネルギー効果としまして、電力・燃料使用量の削減量、それからごみの資源化率・リサイクル量、公用車のＥＶ・低公害車への転換台数などを検討しております。この中には、データ収集の体制整備や関係機関との連携が必要な項目もございますので、実現可能なものから段階的に対応してまいります。

また、ゼロカーボンシティ宣言の実現には、行政単独の取組では限界があり、市民・事業者との連携が不可欠でございます。現在の主な取組としては、市民を対象としては、環境学習の推進、省エネ・節電の啓発、ごみ分別・リサイクルの徹底を。また、事業者へは、省エネ設備導入への支援・情報提供、再エネ利用の促進を行っております。また、行政としては、市有施設のＬＥＤ化・省エネ改修、公用車のＥＶ化推進、率先行動計画の実施に取り組んでおり、環境審議会を通じた意見集約、地域イベントでの啓発活動で連携を図っております。引き続き、三者が有機的に連携できる仕組みを強化してまいります。

次に、２点目のひだゼロカーボンアクションポイントについてお答えいたします。飛騨市は令和４年３月にゼロカーボンシティ宣言を表明し、2050年までのCO_2排出量実質ゼロを目指して

おります。令和５年３月には、この目標に向けた脱炭素推進ビジョンを策定し、市民・事業者・行政が一体となった取組を進めております。しかし、令和５年度のアンケート調査では、全体の92%が地球環境問題に関心があると回答しながらも、32%の方が脱炭素という言葉を聞いたことがないと答えられています。さらに、市民からは、脱炭素とは何か分からない、脱炭素のためにできる行動は何か分からない、取組の効果が分からないといった声が寄せられました。

こうした課題を受け、市では、令和７年度に家庭でできる具体的な行動メニューや、その必要性を解説した市民向けのガイドブック、ひだゼロカーボンガイドを古川中学校生徒と一緒に策定いたしました。さらなる脱炭素意識向上のために、ガイドに付随したひだゼロカーボンアクションポイント制度、アプリとカードも予定しておりますが、それを構築し、１月より実証実施したところでございます。このポイント制度の導入は、ガイドに記載された行動を実践した市民が、アプリを通じて自己申告でチェックできるシステムです。市民の皆様は、マイバッグを持参などの日常の行動を記録することでポイントを獲得できます。また、ポイント制度は、ランキング機能を備えており、個人別のランキング表示により競争心を刺激し、継続的な参加を促進する仕組みとなっております。

今年度、古川中学校有志13名で８月までに12回の勉強会を重ね、若い世代の視点を取り入れることで、より使いやすく、魅力的なアプリの開発を目指しております。生徒からの具体的な提案としては、キャラクターの導入や音声案内の追加がありました。これを受け、宮川町に合宿に来られた賢プロダクション所属の声優による音声案内を追加するなど、市民の皆様が生活の中で脱炭素の取組を楽しみながら実感できるような仕組みを通じて、飛騨市全体の脱炭素化を推進してまいります。

今後の取組としては、まず９月12日に開催予定の薬草フェスティバルにて、生徒が作成したチラシで来場者の皆様にＰＲするとともに、脱炭素化推進協議会の会員を通じた周知や、11月のエコチャレンジ月間を活用し、リユース広場などでＰＲを進めてまいります。

〔環境水道部長　谷口正樹　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔農林部長　洞口廣之　登壇〕

□農林部長（洞口廣之）

それでは、私からは３点目のバイオコークスの取組についてお答えいたします。議員御指摘のバイオコークスについては、木くずや野菜くず、牛ふん堆肥など、地域にあるバイオマス資源をエネルギーとして活用できる可能性があり、市としても積極的に取り組んでいきたいと考えております。特に、牛ふんについては市内の畜産農家から年間約２万トンが排出されており、このうち吉城コンポでは3,650トンを受入れ、堆肥として製造・販売しているほか、それ以外については各畜産農家において堆肥化し、自給飼料を生産するために圃場へ散布するなど、地域の中で資源として活用されています。

こうした中、令和５年３月に現在のバイオコークス製造会社の前身である木工会社から、吉城コンポの牛ふん堆肥を利用した固形燃料の製造について協力依頼があり、畜産振興課、総合政策課、吉城コンポで検討をした経緯があります。牛ふん堆肥にエネルギー資源としての新たな価値

を加えることで、吉城コンポの経営改善や環境負荷の低減、さらには地域におけるエネルギー確保にもつながる可能性があるものとして期待している取組でございます。また、令和７年度には、岐阜県が産学官による岐阜県バイオコークス普及推進研究会を設置し、本市もこれに参画をいたしております。現在、実用化に向けた技術検証や供給システムの構築について研究が進められており、乾燥に要するコストや技術の確立、用途に応じた製品形状への対応、安定した供給体制の構築、さらには需要の把握や市場開拓などが課題として挙げられています。

市といたしましては、現在、堆肥として地域内で循環利用されている牛ふんに、バイオコークスという新たな活用の選択肢が加わることは、地域資源の有効活用はもとより、脱炭素の推進や地域におけるエネルギー循環の観点からも大きな可能性があると捉えています。一方で、実用化に向けては堆肥の水分管理や乾燥コスト、下呂市の工場までの輸送コスト、製品としての熱量効率に加え、安定した原料供給と利用需要の確保など、解決すべき課題も残されていますので、こうした課題を一つ一つ見極めながら県の研究会や関係事業者、関係部局とも連携し、地域にある資源を新たなエネルギーとして活用する仕組みの具体化に向け、積極的に検討を進めてまいります。

〔農林部長　洞口廣之　着席〕

○10番（住田清美）

飛騨市ゼロカーボンシティ宣言について御答弁をいただきました。宣言をしたところでございますが、どのように取り組んでいくのか大変難しい課題だと思っています。その中で、全体の92％の方がこのゼロカーボンとかに関心はあるけれど、32％は脱炭素という言葉がよく理解できない、分からないということだったんですが、今のお答えの中にも脱炭素推進協議会というのも別立てであると思うんですけれど、この脱炭素推進協議会の会員構成はどのような方からなっているのか。そしてこれって環境審議会との位置づけはどういうふうになってるのか。同じ方向を見ているのか、別々のものなのか、その辺をお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

まず環境審議会につきましては、飛騨市環境基本条例に基づきまして、条例の基本理念を具体化するために環境の視点により基本目標を設定し、具体的な施策について御審議をいただく機関でございます。豊かな自然環境を守る施策や生活雑排水対策、騒音振動など、広く環境の全般にわたる審議をしていただいております。一方、脱炭素推進協議会は、脱炭素推進ビジョンの推進に特化した官民連携の場でありまして、脱炭素という特定のテーマに関わるステークホルダーが協働する組織でございます。

○10番（住田清美）

それでは、このゼロカーボンシティ宣言にあるように、2050年までに実質排出量ゼロとするというところを、より協議する場はどっちなんですか。それとも別々に審議して目指すところは一緒なのか、その辺の関係性は、それぞれの会議の立ち位置はいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

どちらがということではございませんが、いずれしても脱炭素に関しましては両方とも組織が関連することでございますのでよろしくお願いします。

○10番（住田清美）

審議会とか協議会とかがありますけれど、目指すところはゼロカーボンシティ宣言の実現というところだと理解をいたしました。ゼロカーボンシティ宣言の中にも、市民・事業者・行政がそれぞれのところで一生懸命頑張って、連携しながら実質ゼロを目指しましょうというところだと思うんです。それぞれの役割、やっていること、今いろいろお話をいただきました。その中で、行政として公用車のＥＶ化、ＬＥＤ照明等とありましたけれども、電気自動車は公用車に限らず民間のほうでも導入されていると思うんですけれど、この辺の事業効果というものは、何か数値に出るもので表れてくるんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

ＥＶの補助につきましては、私どものほうでやっております。ただ、昨年の実績は今後の決算特別委員会で御報告いたしますが、昨年は１台でございました。ただ、今年に関しましては予算の４台分全て４月の中旬には消化いたしまして、今年に入りまして本当にＥＶに対して御興味をお持ちの方が多かったという認識でございます。ただ公用車につきましては財政的な問題もございますし、なかなか即導入できるわけではございませんけども、管財部局のほうには要求してまいりたいというふうに考えております。

○10番（住田清美）

ぜひ民間のＥＶ車の導入とかも、来年度の環境審議会で数字に見える形で報告いただけると大変ありがたいと思いますし、予算の関係もありますけれど、やはり行政が先陣を切ってゼロカーボンに向けて進んでいただきたいと思っています。

私が質問した２つ目、中学生が開発いたしましたひだゼロカーボンアクションポイントですが、10月からの導入を目指して薬草フェスティバルでもＰＲをしていくというような御答弁をいただきましたが、このアプリって、大体どれくらいの普及率を見込んでいますか。せっかくつくったのでたくさんの方に利用していただきたいと思うのですが、目標値などはありますでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□環境水道部長（谷口正樹）

まめとく健康ポイントと同じような体系かなということで思っております。具体的には、初年度で500人、２年目で1,000人、３年目に1,500人と、ちょっと少なめかもしれませんけども、市民全体の約５％以上は確保したいというふうに想定しております。

○10番（住田清美）

控え目な数値で、もっとＰＲしましょうよ。アプリのさんあ～るも3,000人以上の方に導入していただいておりますので、ぜひこのアプリもＱＲコードなり読み込めばできると思いますので、皆さんでぜひこのポイントを普及していただいて、どれだけでも環境に関心を持っていただけれ

ばと思います。本当に中学生が開発したのですばらしいと思いますので、ぜひＰＲをお願いしたいと思います。

それからバイオコークスにつきましてお尋ねしたいと思います。畜産を中心に積極的に取り組むという御答弁をいただきましたが、吉城コンポさんとも連携をしながらということなんですが、将来的には飛騨市の中でバイオコークスを作るような方向まで進めていくのか、あるいはここは乾燥までにとどめるとか、集約だけにとどめるとか、そういったことは具体的に検討されていますでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□農林部長（洞口廣之）

答弁でも申し上げましたように、現段階で解決すべき課題というのはたくさんございます。その中でもやはり経済的に元が取れるのか、合うのかっていうことはもう大きな懸案事項でございます。なので、今の時点で市内にこういった施設を造って稼動させるというような案まで持ち合わせているわけではございません。

○10番（住田清美）

国や県の動きもあると思います。これからどれだけ補助していただけるのか、でもエネルギーとしては第三なのか第四なのか知りませんが、新たなエネルギーとして多分着目されるのではないかと思っています。牛ふんのみならず、山が多くて広葉樹のまちづくりも進めている、木くずも出る、例えばですがホウレンソウ農家、トマト農家も多いので、ホウレンソウだったら葉っぱとか軸の残渣、ああいうものも全部バイオコークスに利用できるということですので、今後の方向性をしっかり見ていきたいと思いますが、これには農林部だけでなくて企画部とか商工観光部、いろいろなところと連携して前向きに検討いただきますが、庁舎内にそういったプロジェクトをつくる予定は特にはないんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□農林部長（洞口廣之）

機が熟してまいりましたら、そういったプロジェクト化というようなこともあるのかもしれませんけれども、現段階で農林部として思っておりますのは、やはり吉城コンポの存在というものが大きいかというふうに思います。各農家から牛ふんを集めてくるという施設であるということ、それから市内に例えばそういった工場自体ができなくても、水分量の多い堆肥を集めてきて乾燥して、ハブ機能のようなこともあるのではないかというような観点で、県の研究会のほうにも飛騨市から、そういったことも考えられないかというような提言を積極的に行っているところでございます。吉城コンポについては飛騨市独自の資産だと思っておりますので、こういったことの有効活用ができないかということをまずは取り組んでまいりたいと考えております。

○10番（住田清美）

バイオコークスについては小笠原議員も明日質問されるようでございますので、そちらのほうでもゆっくりと前向きな御答弁をいただきたいと思っています。いずれにいたしましても、2050年までに実質二酸化炭素の量をゼロにすると宣言をいたしました飛騨市でありますので、市民も、

事業者も、行政も、みんなで手を取り合って、二酸化炭素の量は見えませんけれど、どれだけでも少ない取組をしていきたいと思うところでありますので、今後とも頑張ってまいりましょう。

それでは次の質問に移らせていただきます。２つ目は、がんなどに関する体制整備についてお尋ねしたいと思います。今や２人に１人ががんに罹患する時代。がんになっても治療しながら、あるいは治療後に職場復帰される方も多くなってきています。しかし、当事者からは仕事や生活に関する悩みを聞いてもらえるところが分からないという声が聞かれています。

そこで市では、今年度から様々な体制を整え、がんなどの当事者になっても１人で悩まず、その先の生活を相談していける体制づくりを目指しています。８月２日には市長とふれあいトークで、「がんになっても社会とのつながりや仕事をあきらめないまちへ」として、講演会に続き、ゲストを迎えてのトークが行われました。がんサークルの代表者、がん体験者の御家族、そして事業者の方を迎え、それぞれの立場から体験談やアドバイスなどを聞くことができました。皆さん意外とポジティブに捉えられ、勇気をいただきました。そのほか、市では相談窓口や企業への理解促進などを計画されていますが、どのように実施され、相談される方への周知、その後のつながりになっているのかお伺いしたいと思います。

また、今回の補正予算に金融機関からの寄附金を活用し、市民病院に「痛くない乳がん検診」としてＭＲＩでの乳がん検診ができるようになります。せっかく導入するのですから有効活用していただきたいものです。市が実施する乳がん検診とリンクしているのか、料金設定はできているのかお伺いしたいと思います。

１点目は、相談窓口についてです。がんなどにより生活や仕事、将来への不安を抱える方がまず相談できるのが飛騨市地域生活安心支援センター「ふらっと」であると想定されていますが、どのように周知し、利用者はいらっしゃるのか、相談後しかるべき機関につなげてあるのかお伺いします。

２つ目は、企業への周知についてです。８月２日に行われた市長とふれあいトークに出席された企業は、福利厚生もしっかり構築されて、がんを抱えても安心して働ける職場づくりが行われていると印象づけられました。しかし、市内には小規模事業者や個人事業主も多く、がんになったとき、果たして十分な理解と対応がなされるのか心配でもあります。企業向けの理解促進はどのような形で進められているのでしょうか、お尋ねします。

３点目は、痛くない乳がん検診についてです。現在市では、乳がん検診は検診車にてマンモグラフィーによる検診が行われています。確かに乳房を圧迫する検診のため痛みを伴います。今回、市民病院に導入されるＭＲＩによる乳がん検診は、痛みもなく服も着たまま検査でき、放射線被曝もありません。市民病院でＭＲＩによる乳がん検診を受ける際は、市で行う乳がん検診と同じ扱いになるのでしょうか。料金も同一の検診料金で受けられるのでしょうか。どのような運営を考えているのかお尋ねしたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市民福祉部長　大上雅人　登壇〕

□市民福祉部長（大上雅人）

私からは、１点目の相談窓口についてお答えいたします。ふらっとは、年代や分野を問わない

総合相談窓口です。困り事があれば何でも気軽に御相談いただけるよう、市民への継続的な周知に努めています。また、他の支援機関等においても、対応が分からないことは、ふらっとへ相談いただけるよう周知しています。

このたび、がん等に関する相談窓口としての役割についても、御質問冒頭にもありましたけれども、８月２日の市長とふれあいトークでも御紹介いただきました。がん等罹患への不安、医療費の負担による生活苦、仕事の継続など、がん等にまつわる悩みは人それぞれです。がん等という特定の分野の相談場所というより、がん等にまつわる悩みを１人で抱え込まず、声に出していただける場所として幅広いサポートができればと考えております。どこに相談すればいいか分からないと感じたとき、ふらっとに相談しようと思っていただけるよう、これまで以上に伝わる周知の工夫を重ねてまいります。

なお、がん等患者の方からの御相談はこれまでも一定数いただいております。病気の症状に関しての御相談はございませんが、医療費の負担による家計のやりくりに関する御相談は比較的多く寄せられています。そうした場合は、総合福祉課が家計支援を担っているため、課内で一体的に対応しております。また、がん等と向き合いながら心身を整えるサポートとして、パワーふらっとなどを活用したケースもあります。就労や生活に関する相談については、日頃から関係機関と連携して対応していますので、がん等をきっかけにそうした悩みが生じての御相談の際は、これまでの支援の積み重ねを土台に、一緒に生活を整えていくことを考え対応してまいります。

今後もがん等を抱え、生活の中で様々な不安を感じているときなどに気軽に相談に来ていただけるよう、より一層周知に努めてまいります。

〔市民福祉部長　大上雅人　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔理事兼商工観光部長　森田雄一郎　登壇〕

□理事兼商工観光部長（森田雄一郎）

私からは、２点目の企業への周知についてお答えをいたします。がん等の病気を抱える方が安心して働き続けられる環境づくりのため、事業者の理解促進と支援体制の構築に向けて、主に次の取組を進めております。まず、市内企業の現状や課題を把握するため、今年度、市内企業を対象とした簡易調査を実施いたします。本調査では、国が策定した治療と仕事の両立ガイドラインの認知状況をはじめ、各企業における相談体制の整備状況や、実際の配慮の実施状況について確認を行う予定です。

次に、事業者の意識啓発を図るため、本年12月に企業向けの両立支援セミナーを開催いたします。人手不足が課題となる中、病気を抱えながらも就労を継続・希望する方をどのように受入れるかについて、事業者、労働者、医療機関、支援機関、それぞれの連携の在り方を学ぶ機会を提供したいと考えております。本市の事業者は中小企業や小規模事業者が大半を占めていることから、今後の調査等を通じて個々の企業の状況や実態の把握に努め、中小企業者にとって最適かつ効果的な支援策の実現に向け検討を進めてまいります。以上です。

〔理事兼商工観光部長　森田雄一郎　着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔病院事務局長　佐藤直樹　登壇〕

□病院事務局長（佐藤直樹）

私からは、３点目の痛くない乳がん検診についてお答えいたします。2023年のがん罹患率によると、女性が乳がんにかかる確率は８人に１人であり、乳がんは日本人女性がかかるがんの中で第１位となっています。しかし、早期発見、早期治療により完治の可能性が高いため、市民病院では躊躇せず受診できる検診体制を整え、早期発見につなげたいと考えております。

現在、厚生労働省が科学的根拠に基づき定める乳がん検診の指針では、マンモグラフィー検査が推奨されています。これは短時間かつ低コストで撮影が可能で、多くの医療機関で採用されているため受診者も多く、死亡率の減少に効果的な検査方法としてのエビデンスが得られているためです。一方で、ＭＲＩは日本国内に7,000台以上設置されている装置であり、人口約２万人に対して１台という世界的にも高い水準で配備されています。とはいえ、乳がん検診にＭＲＩを導入している病院は100病院程度です。理由としては、ＭＲＩが脳神経や整形外科系で多く利用されていることに加え、１回の撮影時間が約30分と長く、検査費用がマンモグラフィーより高額であることが挙げられます。現時点では、先進的な取組と言えるＭＲＩ乳がん検診ですが、市民病院としては、早期発見とＭＲＩの稼働率向上の２つの効果に期待し、今回導入を進めることとしました。

機器の特徴を見ると、マンモグラフィー検査は微細な石灰化や触診では分からない小さなしこりの検出に優れています。しかし、日本人の約４割が該当すると言われる乳腺密度の高い高濃度乳房の場合、乳腺もがんも白く映り、病変が隠れやすいという欠点があります。また、乳房を圧迫する際の痛みや不快感、検査に対する心理的抵抗も受診の妨げとなることがあります。

今回、市民病院で導入予定の無痛ＭＲＩ乳がん検診は、マンモグラフィーのような強い乳房の圧迫が不要で、着衣のまま検査が可能であり、放射線被曝もありません。さらに、乳房全体を三次元的に撮影するため、乳腺の重なりの影響を受けにくく、がんの発見率が高まります。また、乳房を圧迫しないため、豊胸術後や乳房手術後の方でも検査が可能で、高濃度乳房でも乳腺密度の影響をほとんど受けません。現場の声としても、術後や片側乳房摘出のハイリスクの高齢化している患者さんから、マンモグラフィーの撮影姿勢が辛いとか、術後の傷のある乳房を圧迫されるのが非常に痛いという意見が多く聞かれており、そういった痛みの少ない検査を求める声に応えられるものと考えています。

また、今回のＭＲＩ検診導入の背景には、既存のマンモグラフィー装置の老朽化があります。平成17年度導入の装置は20年以上使用され、修理を繰り返しておりますが、部品供給や保守が終了し、修理対応の不安が増大しています。そこで、医療資源の有効活用の観点から、ＭＲＩの稼働率向上を図るため、高山信用金庫様の寄附金を活用し、飛騨圏域でいち早く無痛ＭＲＩ乳がん検診を導入することといたしました。

市が行う乳がん検診と同じ扱いになるのかという御質問については、ＭＲＩ乳がん検診には市の助成制度がなく、現時点で健康保険組合等の助成対象にもなっていないため同じ扱いにはなりません。また、ＭＲＩ検診の費用は一般的に２万円前後と高額です。市民病院の検査料は現在検

討中ですが、市民の方が受診しやすい料金設定を目指しているところです。運用にあたっては、既存のマンモグラフィー装置が稼働可能な限り併用し、健康診断のオプションとして無痛ＭＲＩ乳がん検診を追加することで、受診者の選択肢を広げていく予定です。

〔病院事務局長　佐藤直樹　着席〕

○10番（住田清美）

がんなどに対する体制整備について御答弁をいただきました。相談窓口については、ふらっとはいろいろな悩み事を全て網羅されていますので、ふらっとで対応されているとのことなんですけれども、がんに罹患して、病気のことはお医者さん、それから看護師さん等々に聞けばいいけれども、自分の心の中の思いとか家族との問題、それから地域の問題、職場の問題なんかは、個々で抱える問題は違ってくると思うんです。それでふらっとに相談されるんですけれども、この間行われた市長とふれあいトークは割とポジティブな方でしたので、がんになっても前向きに生きている人たちが多かったんですが、そうでない方もいらっしゃるのですから、そういうナイーブな心の持ち主のためにもふらっとはしっかり寄り添っていただいて対応してくださいますでしょうか。そして、しかるべき機関につなげていただけますでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（大上雅人）

実は、もう既に今年度420件ほど相談がありまして、そのうち、がん等の病気に関係するものが26件ございました。ただ、相談を進めていく中で、がんだけが原因ではなくて鬱でしたり、そういった疾患を抱えている方もあったりしまして、複雑な要因が絡まって生活不安になっているということで、ふらっとはこれまでの経験が豊富ですから、そういったことをしっかりと読み解きながら必要な関係機関につないでおります。

○10番（住田清美）

がんだって告知されたらどうしていいのかが分からないのが普通の人だと思いますので、そういう方々がどれだけでも相談できる窓口はしっかりつくっていただきたいです。

それから、２点目の企業に対する対応につきましても、今度簡易調査をしてくださって、その企業における体制整備の弱いところは強くしていただきたいですし、周知もしていただきたいですし、啓発のセミナーも行っていただきたいと思っています。引き続き対応をお願いしたいと思います。

私が一番聞きたかったのは、飛騨市民病院のＭＲＩです。私、乳がんサバイバーですので、検診は一通りしております。マンモグラフィーは痛いです。ＭＲＩは、時間はかかりますけど楽です。

でも、こうしていられるのは、私は検診でがんが発覚いたしましたが、検診の大切さって必要だと思います。予防というか、検診で早期発見は大事なことだと思っています。飛騨市の乳がん検診率はまだ三十数パーセントです。これを限りなく100％に近づけていただくためにも、マンモグラフィーとＭＲＩが選択できれば理想だと私は思っています。痛いのが嫌な方はＭＲＩにすればいい。大丈夫だという方はマンモグラフィーですぐにできます。ただ、同じカウントはできないというのが今の体制というか、厚生労働省が示す指針の中での総意だと思いますし、料金もそ

うだと思います。一般の乳がん検診なら1,000円程度で済みますが、今おっしゃったように２万円もかかると二の足を踏みます。乳がんって言われたらＭＲＩをやりますけれども、検診のために２万円はちょっとななんていう方もいらっしゃると思いますので、例えば選択制にして、このＭＲＩをやられた方には市が少し補助をするなりのことはできないものなんでしょうか。これも早期発見のためだと思っていますが、いかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□病院事務局長（佐藤直樹）

市の検診のほうとも協議は当然しておりますが、現時点では、先ほど申しましたようにマンモグラフィーのほうが厚生労働省でも推奨されているということで、そちらの補助制度のみになってしまうと。ただ、病院としても受けやすい体制をつくれないかということを検討しておりまして、啓発のセミナーのようなものを通じて、比較的受けやすいような形をつくれないかと、今その料金設定についても検討をしているところですので、もうしばらくその辺はお待ちください。

○10番（住田清美）

せっかくいい機械が入るのですから、たくさんの方に受けていただき、早期発見・早期治療等につなげていただきたいですし、宝の持ち腐れにならないような運営をぜひお願いしたいと思います。そのためにはやっぱり検診体制というものももう一度検討していただきながら、マンモグラフィーだと痛いから受けないって方もいらっしゃるので、そういう方の検診を進めるためにも、ぜひ受けやすい料金の中で受けやすい体制を今後各機関とも連携していただきながら検討をいただきたいと思いますが、再度検討していただけますでしょうか。

□市民福祉部長（大上雅人）

予防接種もそうですけれども、様々な補助をしております。優先度の高いものから助成をしておりますので、今後ＭＲＩの乳がん検診についても検討してまいりたいと考えております。

○10番（住田清美）

ぜひ受けやすい条件も単価も検討していただきまして、早期発見につなげていただければと思います。今年こうして飛騨市ががんに特化した取組をしていただいて救われる方もたくさんいらっしゃいますし、これを機にがん検診に行ってみようかなという転機になればいいかなと思っています。どうぞ皆様、早期発見で健康な体を維持してまいりましょう。以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

〔10番　住田清美　着席〕